

⑤ 第5委員会

「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」



それでは、第5委員会の意見を発表します。

第5委員会のテーマは、「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、私^{わたし}たちは、7月22日に中央卸売市^{おろしうり}場本場の施設^{しせつ}見学を行いました。

そこで、私^{わたし}たちは、マイナス50度の教室より大きな冷蔵庫^{れいぞうこ}で、マグロなどが真っ白の氷^{こお}のように凍っていたこと、また、名古屋市民に安定して食料^{とど}を届けるために、1日で1万人以上が働いていることを見ました。そして、新鮮^{しんせん}さと安全^{たんも}を保つためには、冷気^にが逃げない工夫や、温度調節が必要なこと、そして、電気をたくさん使うので、電気エネルギー^{かんしゃ}が大切だと思いました。また、働いている人^{かんしゃ}に感謝して生活したり、食べたりしないといけないなと思いました。

その後、私^{わたし}たちは、施設^{しせつ}見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするためには、何をすればいいか考えました。

それでは、私^{わたし}たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋市民に安定して食料を^{とど}届けるために毎日1万人もの人が働いているということが印象に残りました。食べることは生きる上で必要^{ふ かけ つ}不可欠です。名古屋市民230万人に安定して食べ物^{とど}を届けるために、毎日^{おおぜい}大勢の人が働いているのです。

^{みな}皆さんは毎日言っている「いただきます」にどんな意味^こを込めていますか。食材をつくってくれる人、料理をしてくれる人、そして食材^{かんしゃ}への感謝だけでなく、毎日朝早くから働く人^{かんしゃ}への感謝をみんな^{わす}が忘れない、思いやりのあるまちになるといいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするには、鮮度^{せんど}が安定していて、どの食べ物も決まった温度^{ほかん}で保管されているといいと思います。

○子ども議員

中央卸売市場は、日本各地や海外から集められた野菜、果物、魚、肉など、たくさんの生鮮食料品が貯蔵されています。食料品はそのまま置いておくと質が落ちていき、野菜や果物は収穫した後も呼吸を続けているので、エネルギーや水分を消耗し、味が悪くなったり見た目もしなびてしまいます。そこで、本場では野菜や果物は15度からマイナス1度、魚や肉は0度からマイナス50度と、品物によって温度調整をして低温貯蔵することで、微生物の働きや野菜、果物の呼吸活動を抑え、品質の低下を抑えています。競りなどで適正な値段も決めます。本場は僕たちの食生活を支えるために大切な役割を果たしているのだと、見学をして実感しました。

○子ども議員

僕が見学した名古屋市中央卸売市場本場では、名古屋市が1日に必要とする食料の量の約3分の1を供給しています。ほかの二つの市場などで残りの量の約3分の2を賄っています。

しかし、災害などが起きたときに、一つの市場でも稼働できなくなったら、必要なだけの量が供給できなくなり、私たちの暮らしにも影響が及ぶ可能性があります。なので、市場に頼らないで名古屋市の外から食料を直接もらうようなことが必要だと思います。

○子ども議員

僕^{ぼく}が印象に残ったことは、名古屋市民に安定して食料^{とど}を届けるためにするため、1日に約1万人の人が働いているということです。なので、その1万人もの人が働いてくれるから、僕^{ぼく}たちは食べるものに困^{こま}ることがありません。

感謝^{かんしゃ}して、名古屋でつくられたものを買うようにする。このように僕^{ぼく}たちにできることがあります。ほかには、よいものは宣伝^{せんでん}する、スーパーのチラシを見て、より安くてよりよいものを買うなど、たくさんあります。名古屋市民に安定して食料^{とど}を届けるために、みんなが努力すれば、みんなが笑顔になります。これで終わります。

○子ども議員

僕^{ぼく}たちは、名古屋中央卸売市場本場^{おろしうり}へ行きました。そこで品物に
応^{おう}じた温度管理をするために、800トンもの野菜を保管できる冷蔵
庫^こを見学してきました。安全安心な生鮮食料品^{せいせん}を届^{とど}けるためには、
こうした施設^{しせつ}や冷蔵庫^{れいぞうこ}が必要だということがわかりました。

また、名古屋市民に安定した食料^{とど}を届けるために、1日で1万人以上もの人が働いていて、さまざまな役割^{やくわり}があることを知り、驚^{おどろ}きました。僕^{ぼく}たちは、働いている人たちに感謝^{かんしゃ}して生活しなければなら
ないと思いました。

○子ども議員

私は、「食べ物^{わたし}が安定的^{とど}に届くまち」にするには、食べ物^{わたし}を運ぶトラック^{ゆうせん}優先の道路をつくったほうがいいと思います。

なぜかという^{ふつう}と、普通^{ふつう}の道だと渋滞^{じゅうたい}に巻き込まれてしまう可能性^まがあるからです。なので、市バス^{ゆうせん}優先道路があるように、食べ物^{ゆうせん}を運ぶトラック^{ゆうせん}優先道路をつくるととても便利だと思います。

○子ども議員

食べ物^{わたし}はいろいろな人の工夫によって私^{わたし}たちの口へ届く^{とど}ということがわかりました。これをずっと続けていくには、後継者^{こうけいしゃ}を育てていくことが大事だと思います。そして、もう一つ大事なことは、環境^{かんきょう}だと思います。

なぜかという^{はいすい}と、工場や家庭からの廃水^{はいすい}が海^{えいきょう}に影響^{えいぎょう}を与えて、魚^{あた}がとれなくなってしまうたら、魚を食べることができなくなります。そこで、私^{わたし}たちがそれを少しずつなくすために、ごみの分別などをみんなが心がけていけば、いつまでも食べ物^{とど}を安定的^{とど}に届けられるのではないかと思います。

○子ども議員

僕^{ぼく}が、「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」で最も印象に残ったことは、マイナス50度の冷蔵^{れいぞうこ}庫です。中はとても冷たくて、体が凍^{こお}りそうでしたが、ここまで冷やさない^{しんせん}と食べ物^{とど}が新鮮^{れいぞうこ}ではなくなってしまうんだと思いました。マイナス50度の冷蔵^{れいぞうこ}庫の中には、主にマグロ^{こお}などがありました。マグロがとてもカチコチに凍^{こお}っていて、白くなっていました。これも「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にとって大切なことなんだなと思いました。

○子ども議員

「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするために、私^{わたし}が見学したことについて自分なりにまとめました。

皆さん^{みな}は、青果物と水産物を知っていますか。青果物は主に野菜や果物です。水産物は加工物や魚^{ほかん}のことです。青果物や水産物は出荷^{おろしうり}した後どこの倉庫^{ほかん}でどういう温度で保管しているかわかりますか。ここに近い保管の場所だと、中央卸売市場本場になりますね。物はちゃんと区別され、それぞれ温度も違います。青果物のカボチャ^{ちが}やバナナは15度、キャベツやレタスだと0度、温度が違います。水産物の冷凍魚^{れいどうぎょ}はマイナス15度ぐらいで寒いぐらいの温度ですが、冷凍マグロ^{れいどう}は寒いだけではなく、凍^{こお}ってしまいそうな温度、何とマイナス50度なんです。温度はその食材^{しんせん}に合わせて調節しているそうです。それ^{たも}をすることで、新鮮^{しんせん}が保つのと、安心・安全・安定的な状態^{じょうたい}で皆さん^{みな}にお届け^{とど}できます。つまり、「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするための一つの理由だと思いました。

○子ども議員

わたしは、「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするには、野菜や魚を運ぶルートをもっとよくするといいいと考えました。

一つが、名古屋市^{しえい}営地下鉄を使ったらいいます。市場と名港線^{じゅうたい}をつなぐと^ま渋滞^こに巻き込まれないし、大雪や大雨などの天候の^{えいぎょう}影響を受けないからです。

もう一つが、名古屋高速を市場につなげることです。市場に出入り口をつくって、そこを出入りするトラックを無料にします。そうしたら、高速道路^{しんせん}を使って新鮮な野菜や魚を市内に早く配達できると思います。

○子ども議員

「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするには、食べ物を1カ所からではなく、複数箇所^{ふくすうかしょ}から入荷するために、さらに巨大な冷蔵庫^{きょだい れいぞうこ}をつくればいいと思います。

なぜなら、冷蔵庫^{れいぞうこ}をつくることで、食べ物の量を調節することができ、一つの生産地が生産できなくなったときにも、安定的に食卓^{とど}に届けられるからです。また、食品衛生検査^{えいせいけんさ}で安全性^{あんぜんせい}を確保^{かくほ}する以外にも、海洋汚染^{おせん}を防止^{ぼうし}したらいいます。そのためには、工場の^{はいすい}廃水を海に流さず、自分も海をきれいにする必要があると思います。

^{わたし} 私たち第5委員会は、このようなことが名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするために必要だと考えました。

これで、第5委員会の発表を終わります。

■ ^{おおむらけいざい}大村経済水道委員長の^{とうべん}答弁

第5委員会の^{みな}皆さん、子ども委員の^{みな}皆さん、すばらしい意見発表を本当にありがとうございました。

最初は^{きんちょう}緊張でなかなか意見が言えなかった子ども委員の^{みな}皆さんも、^{ぎろん}議論やりハーサルを重ねるにつれ、自分の意見を積極的に発言したり発表することができるようになりました。これは、今後の^{みな}皆さんの人生に大いに役立つことになると思いますし、そして、大きな^{みな}皆さんの自信にもつながったのではないかと思います。

^{みな}皆さんと^{いっしょ}一緒にこの3日間、「食べ物が安定的に届くまちづくり」というテーマで、^{いっしょ}一緒に^{ちょうさ}調査研究にかかわらせていただきました。

まず、初日の7月22日に、^{おろしうり}中央卸売市場本場の^{しせつ}施設見学を行いましたね。マイナス50度の大きな冷蔵庫に入り、大きなマグロなどが真っ白な氷のようになっていたこと。そして、かけていた^{めがね}眼鏡がすぐに凍ってしまった。^{あま}余りの寒さに^{みな}皆さんがびっくりされてしまったね。

^{わたし} 私たちのもとに安心して安定的に食料を届けるために、ここまでしっかりと温度調節をして、^{ほぞん}保存をすることを^{みとど}見届けてもらえたと思



います。また同時に、食べ物を運ぶルートや潰れない工夫をするために、1万人以上の人々が働いていただいていることも実感していただきました。

だからこそ、働いている方々に感謝をして食べなければならないという大切さも学んでいただきました。人としての優しさを学んでいただけたことにうれしく思います。これから、家庭での毎日の食事や給食をいただくのに、「いただきます」、「ごちそうさまでした」と心から感謝できますね。

最後になりますが、子ども委員長、副委員長を初め、12名の子ども委員の皆さんと3日間本当に大変有意義な時間を過ごすことができましたことに感謝申し上げますとともに、今回この大変貴重な経験を今後にも生かしていただきたいと思います。私も、皆さんからの提案を名古屋市政に生かせるように努力してまいりたいと思います。

また、この第5委員会の経済水道委員会の両副委員長、松田指導主事には、アドバイスや御協力も含めしっかりと子ども委員の皆さんに向き合っていたいただいたことに感謝申し上げ、私の答弁とさせていただきます。3日間本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

